森林樹木の稚苗圖說（一六）

Y. Yanagita; Illustration of the Seedling of Forest Trees.

（昭和四年三月十一日受理）

柳田 由藏

第一六一 シロモジ *Lindera triloba*, Bl. 樟科 Lauraceae

本稚苗は林試構内新開地、母樹下に自生せるものを調査したるものなり、本稚苗も亦子葉を地下に止むる種類にして、果皮は薄き方に屬し外面黒色を呈し、發芽の際子葉の分離に伴ひ、肉眼にては少々正しく分裂す、子葉は半球形淡黃色を呈し、長一二耗許、幅一二耗許、厚六耗許、葉柄は僅かに之を認め得るに過ぎず。軸と認むべき部分を缺き、子葉の着點以下は即根部なり。莖は子葉の着點以上にして、地下にある部分は白色を呈し、地上に出づる部分は帶淡紫綠色即暗綠色にして、上部程綠色に富み、尙ほ上部は淡綠色となる、莖は平滑にして光澤を有し、葉柄の基部左右より凸條を流下す（特）。新葉は初より互生、地上及び地下にあるを論ぜず、七―九葉は鱗片葉なり、但し上部に至るに従ひ、其大さを増し、第七葉目頃より裂葉となり、九―一〇葉目頃より三裂の少々完全なる葉を生ずるに至るものなり、葉は有柄、輪廓は倒卵橢圓乃至橢圓形、先端深く三裂し、左右の兩裂片は外曲するを特性とす、基部圓又鈍或は楔脚をなす、葉縁は一種の硬組織即周緣脈を具へ、容易に破れず、葉の二強側脈は葉片の内部に於て主脈と分離す（特）。是れタンカウバイと區別の特點なり。根は普通大にして硬質、初め淡褐色、漸次褐色となる、側根は少々水平に出で粗根なり、小數の岐根を有す。

第一六二 ニガキ *Picrasma quassioides*, Benn. 苦木科 Simarubaceae

本稚苗の母樹は栃木縣芳賀郡真岡町産のものを播種培養したるものなり。本種も亦子葉を地下に止むる種類にして、種皮は少々堅く、外面淡褐色にして褐色の斑點を散布す、發芽の際子葉の膨脹分離に伴ひ、種皮も大體二裂す、子葉は多肉質、殆んど半球狀倒廣卵形、基部に兩耳を有す、白色にして少しく黃味を帶ぶ、長四・五耗、幅五・五耗、厚三・三耗許あり、子葉柄は少々深く兩耳内に進入し、長二・二五耗に達す。胚節

線は稍々明。軸は白色、甚だ短かく僅かに一・五耗あり、僅かの隆起線と色を異にするに依り根との界線を認め得べし。莖は胚節以上の部分にして、地中部は白色、地上部は淡綠色微紅を帶ぶ、而して地上部は短毛密生するも、地下部は殆んど之を缺く。新葉は初より互生（本調査に用いたる稚苗は數十粒を播種したるもの僅かに二本發生し、内一本は第一葉は互生、第二第三葉は對生、他の一本は本圖に畫きたるものにして、第一、第二葉は互生、第三葉と第四葉と對生したり、是れ果して對生葉を生ずるは原則なるや否や不明なれども、他日追加の期あるべきを信ず）、第一葉は胚節を去る二〇—三〇耗の所即ち地上に鱗片葉を生じ、尙ほ間隔を以て第二葉を生じ幾分其大さを増すと雖も、全縁有柄の不完全葉にして、第三葉及び第四葉は相接近して一直線をなし、殆んど對生葉の觀を呈し、茲に初めて兩葉共、三小葉より成る複葉をなす、葉は長柄にして、頂葉は披針狀長橢圓形、小葉は卵狀橢圓形、兩者共、銳尖頭、鈍脚、鋸齒縁なり、表面著しく光澤ありて脈上のみ毛あり、裏面も亦脈上に毛あり、葉柄亦毛少なからず、芽即ち極初葉も亦赤褐色毛を被り、赤褐色に見ゆ（特）。第五葉は五小葉、第六葉は七小葉より成る複葉なり。根は初め白色なるも、漸次に淡褐色となり、普通大にして、側根は稍々密に生じ斜行す。

第一六三 歐洲クマノミヅキ *Cornus sanguinea*, G. Hartiegel. **山茱萸科** *Cornaceae*

本稚苗の母樹は歐洲原産ものにて、種子を林試にて輸入、小山技師の播種培養したるもの、其好意に依りて調査したるものなり。子葉は普通厚、水平に開張、柄は斜上す、橢圓形、兩端圓、表面帶紫綠色又は暗紫色（特）。平滑にして稍々光澤あり、裏面帶黃淡綠色、紫色を帶ぶるものあり、脈は表面に僅かに隆起裏面色を異にし僅かに認め得べし、葉片は葉柄に流れ、片柄の別明ならざるも、柄部は紫色を呈す、葉は常に左右兩縁は上に曲り、前後は下曲する性あり（特）。葉長一三—一四耗、幅七—七・五耗、柄長一耗許なり。胚節明瞭し字形をなす。軸は圓く上部淡綠色、中部帶紫紅色、下部白色なるを常とするも、時に中上部帶微紫紅色なるものあり、是れクマノミヅキと差あり、又粒狀凸起を認む、クマノミヅキは點線狀なるも、是は粒狀なるに依り區別す。莖は淡綠色、下部微紅を呈し、莖には白剛毛密布して莖に接合す、莖は僅かに方形狀を呈す。新葉は初より對生、第一對は胚節を去る一〇—一八耗の所に生じ、有柄、卵形又廣卵形の葉を水平に開張す、葉裏には脈にのみ密偃毛あるも、葉肉部には少なし、是れクマノミヅキと差あり。軸と根との界線稍々明にして、根部は褐色、軸部は白色なる故區別し得べし、根は普通大にして主根を有し、側根粗に稍々斜行す。

第一六四 カクレミノ *Glibertia trifida*, Mak. = *Oplopanax japonica*, Nakai. **五加科** *Araliaceae*

本稚苗は三浦半島觀音崎地方産のものを播種培養したるものにして、子葉は稍々厚紙質、水平に開張、橢圓形又卵狀橢圓形、兩端圓、全縁、頂點微凹頭をなすものあり、且つ主脈端は厚質組織發達す(特)。脈は表面に網狀脈と共に少しく隆起し、恰も皺狀に見ゆ、主脈及び二側脈は特に著し、裏面に於ては網狀脈は隆起せざるも色を異にし、僅かに之を認め得べし、表面帶黃綠色、裏面帶青淡綠色、平滑少しく光澤あり、葉長一三・一五耗、幅八・九三耗、柄長三・三三耗ありて比較的長く見ゆ、葉片は縁邊少しく裏曲する性あり。胚節明、狭きU字形をなす。軸は淺き十數條の隆起線あり(ルーベ)、淡綠色にして平滑光澤あり、地中部白色を呈す、兩柄基の合點より淺き凹條を流下す、軸長三・五—四〇耗あり。新莖は秋初にあらざれば見るを得ざるも、殆んど軸と同様にして縱凸條を有し平滑なり、多くは淡綠色なるも、時に淡々紫色又は淡暗紫色のものあり。新葉は初より互生、第一葉は胚節に接近して生じ、長柄、卵形、銳尖頭、圓脚又鈍脚、鋸齒縁の葉にして鋸齒は時に缺刻狀をなすものあり、葉の最廣部以上にのみ鋸齒を有し、以下には之を缺く、脈は表面に隆起し、裏面は色を異にし之を認め得るに過ぎず、葉は厚紙質にして兩面共淡綠色光澤あり、葉柄の上面は廣き溝をなし、兩緣透明様の翅狀物を認む、柄の基部は廣く擴がり莖を抱く。根と軸との界線稍々明にして根は淡褐色を呈し、主根を有し側根は稍々斜行し、粗根なり。

第一六五 マタタビ *Acinidia polygama*, Miq. **獼猴桃科** (一名) **木天蓼科** *Dilleniaceae*

本稚苗の母樹は福島縣白河郡牧元村産のものを播種培養したるものにして、子葉は質薄く、水平に開張するも、柄は斜上し、柄頭に於て屈曲す、子葉は橢圓形又卵狀橢圓形、鈍頭、圓脚、全縁、表面綠色、裏面淡綠色稍々光澤あり、脈は表面の主脈稍々平、裏面に隆起し、網狀脈は一見不明なるも、透視すれば之を認め得べし、長八耗、幅七耗、柄長二耗許あり。胚節明、開きたるU字形をなす。軸は淡紅色、時に紅色なるものあり、此の紅色は「ルーベ」にて窺ふときは紅色にして光澤ある粒狀凸起の密集せるものなり、軸長は二〇耗を算す。莖は圓く淡紅色を呈し透明狀の縮毛密生す。新葉は初より互生、第一葉は胚節を去る三—四耗許の所に生じ、長柄、卵形、尖頭、圓脚の葉にして銳鋸齒あり、表面淡綠色、裏面同色平滑光澤あり、裏面脈上に透明狀の直毛粗布し、表面主脈上にも之を有す、葉柄には透明狀の縮毛あり、第二葉は第一葉に接近して生じ、第三葉は離れて生ず、葉柄は何れも淡紅色を呈す。根は主根あるも側根著しく發達し、岐根を有し、細根なり、淡褐色を呈し軸根の區別僅かに認め得るに過ぎず。

第一六六 ウジコロシハギ 一名 **ミソクサ** *Desmodium laburnifolium*, DC. **荳科** *Leguminosae*

本稚苗の母樹は著者が房州館山町城山より苗木を採集して來たれるものが結實したるを以て、播種培養したるものなり、茲に一寸挿入仕度きことは此樹の果實である、無論荳科植物であるから、莢果で長六―八稜位、幅四―五耗のもので、一莢中五―六粒の種子を含んで居る、而して果皮には剛刺毛が生えて居つて、動物の體に付着して分布することヌスピトハギの如きものである、此れ丈では何の奇もなければ、所が此の莢が種子毎に莢が分離して、一莢が數個に分裂するのである、之を學術語で節莢 (Jomentum) と云ふのであつて、分布上好都合であるものと思ふ。閑話休題。子葉は厚質なるも、縁邊に薄く水平に開張し、柄は斜上し、柄頭に於て屈曲し、兩子葉共一方に偏する性あり、橢圓形にして頂圓きも時に鈍又尖頭をなすものあり、基部圓し、全縁、表面深綠色、裏面帶青綠色、時に縁邊黃色を呈するものあり、脈は表面に凹み、裏面に隆起し主脈のみ認めらる、葉縁に微毛あり (ルーベ)、子葉長一〇―一一幅、五―六耗、柄長一一・五耗、柄に短毛を帶ぶ。胚節明、開きたるU字形をなす。軸は圓く綠色、短毛密布、長一五―二五耗に達し地下部は白色なり。莖は圓く綠色、稍々白き短毛密布す。新葉は胚節を去る二―五耗の所に對生葉を生ず、此の對生葉は單葉にして長柄、全體心臟形、不整細齒牙縁 (ルーベ)、表面綠色、裏面青綠色、脈は表面に凹み、裏面に著しく隆起す、表面脈上及び葉柄、葉縁に毛あり、基部に托葉を有す、托葉は披針形有毛なり、第三葉より互生葉となり、且つ三小葉より成る複葉をなす、三小葉は卵形又は心臟狀卵形にして、著しく母樹の葉と其形を異にし、別樹なるやの感あり。根は主根を有するも後發達せず、側根は屈曲性稍々密に出づるも、岐根を生ぜず、稍太き根をなすも未だ菌根瘤を生ずるに至らず、根は初め白色、漸次帶黃色となり、後淡褐色に變ず。該稚苗は一種生臭き臭氣ありて著し (特)。

第一六七 ツクバネカン *Quercus paucidentata*, Franchet. = *Q. sessilifolia*, Bl. 殼斗科 Fagaceae

本稚苗の母樹は林試第一陳列室東脇のものを播種培養したるものにして、長實のものなり、本樹の學名は從來 Plumen 氏の命名したる *sessilifolia* (短柄を有する葉) を用ひ來りしが、中井博士の説に従へば Franchet 氏が *paucidentata* (小數の齒牙を有する) として發表したるものを正しとの事なれば、著者は之に従ひ右學名を用ひたり、本樹種も亦他の櫟類と同じく子葉を地下に止むる種類なり、而して成樹、種子、稚苗等著しくアカガシに類似し、其相似たるものは識別に殆んど困難を感ず、是れ蓋しアカガシとツクバネカンと分離して日淺きが爲か又は中間種を生ぜし爲かを明にせず。閑話休題。子葉は正しく二枚に分離するも、果皮は之に伴ひ大體二裂し、尙果實の頭部更らに小裂するを常とす、子葉は卵狀長橢圓形、頂圓基部狹く二つに分る、全縁、葉柄はアカガシの如く子葉の内部に進入し、又彼の如く葉柄は子葉の表面に着き、且つ柄頭

凸起を有すること彼に同じきも、稍々彼より幾分低し、子葉は帶淡黃色にして、其長一八糎、幅七・五糎、厚三・五糎、柄長一二・二三糎に達

し、子葉頭を去る七―八耗の所迄進入せり、柄の幅二耗内外、内面(表面)深き溝をなす、且つ溝内に毛あるも、時に之を缺く、柄には一般に毛あるも、基部は特に多し。胚節明瞭。軸は胚節以下七―一〇耗許にして、莖又は根よりは割合に太く、點凸起を散布し、不整の縱皺を有す、初め淡色なるも、後褐色に變ず。莖は地下部は淡色なるも、帶黃色となり、遂に褐色に變ず、地上部は淡綠色、地下部と共に白剛狀毛を具へ、多くは上向くも、内に縮毛を混じ、後には淡褐毛に變ず、莖長四五―五五耗を有し、葉を頂端に簇生し、一旦成長を休止す。新葉はアカガシと同じく鱗片葉を生ずることなく、初めより對生の眞葉を具へ、二葉の儘にて成育中止するものと、更らに二―三耗を隔て、前對葉に直角に二葉を生ずるものあり、葉は初めは帶紫淡綠色褐色毛を密布するも、日を経るに従ひ毛は消失し、葉片は綠色となり、平滑光澤ある葉となる、葉は廣披針形、頂漸尖、楔脚、全緣、長四〇―五三耗、幅一六―一八耗許にして、柄長僅かに二―三耗にして (*sessilifolia*) の名に負かざるものと云ふべし、葉柄の毛は多くして宿存性なり。根と軸との界線は明にして界線附近の根は淡褐色にして著しく軸と色を異にす、根の主根は著しきも、アカガシに比すれば稍々細し、側根は割合に少なく、且つ少なく短かき岐根を有す、側根は二〇耗の長さを越ゆるもの稀なり、根は初め白色、明なる根毛密生し、漸次淡褐色に變じ、後黒褐色となる。アカガシとの識別點は軸にあり、彼は多毛なるも、是は殆んど毛なし、尙ほ其葉彼は葉片脚鈍なるも、是は尖脚なるにあり、尙ほ又彼は葉片上に卷くも、是は水平なる等はなり。

第二六八 ヤブツバキ *Camellia japonica*, L. var. *spontanea* Makino. 山茶科 *Theaceae*.

本稚苗は林試接續地目黒不動尊墓地に植栽せられたるものより播種培養したるものなり、本樹も亦子葉を地下に止むる種類にして、子葉の形狀一定せず、即ち子葉の形狀は核皮の形狀に支配せらるゝが爲なり、子葉は常に堅硬なる核内に藏せられ發芽するも、核外に出づることなし。但し正しく二枚に分裂する性を有するも、左右相稱形を爲さず、從て其大さも亦區々なるを以て、本稚苗に附着せるもの、測定の結果に依れば、長さ一一―一四耗、幅一四―一四・六耗、柄長一〇―一三耗、葉柄の幅五耗に達す、子葉と柄との界には隆起點あるも或は之を缺くものあり、子葉は初め淡色(黃味を帯びたる)なるも、漸次綠色を帯ぶるに至れり、本稚苗は淺播なりしを以て、地表近くに在りし爲めに綠色を帯ぶるに至りしものなるべし。軸部は割合に短かく、成長したるもの原圖位のものにて、長さ一〇耗前後に過ぎず、初め根との界線不明なるも、漸次褐色に變じ明瞭となる、根は白色なり。新莖は割合に太く、地下部は初め白色、地上部は綠色なるも、地上、地下部共漸次淡褐色となり、遂に褐色に變ず、茶褐色を呈するものあり(特)、全體に毛あり、但し葉群部の莖は殆んど毛を有せず、極稀に之を有するものあり、全體の毛はサザン

クワの如く甚だしからず、莖長九〇—一二〇耗に達す。新葉は初めより互生、時に對生狀のものを認むることあり、第一葉は胚節を去る五—一〇耗の所に生じ、不完全葉即ち鱗片に近き葉をなす、此の不完全葉は多くは四—五個を有し、第五乃至第六葉目より新葉を二—三枚群生し、以て當年の成長を中止す、葉は革質平滑、有光澤、橢圓形、長楕圓形、倒卵狀橢圓形、鈍頭、銳脚、硬鋸齒緣、鋸頭内曲、網狀脈著しく見ゆ。根は著しき主根を有し、直走し、軸との界線部附近より急に太くなり、後漸次細くなる、側根は支根を有し、稍々斜下し屈曲性あり、時に側根に總狀の根を生ずることあり、菌根の如し。

第一六九 ニセアカシヤ 一名 ハリエンビエ *Robinia pseudacacia, L.* 荳科 Leguminosae

本稚苗は外國產にして北米、特に Alleghany 原產にして、現今全世界に移植せらるゝに至れりと云ふ、林試構内產のものを播種培養したるものなり、子葉は稍々大、少しく多肉性、水平に開張、柄は斜上、葉片は前後に僅か反曲す、亦少しく左右に曲り恰も裏面に杓子狀をなす、其形は倒卵狀橢圓形、圓頭、圓脚、全緣、脈は表面に於て僅かに凹み、裏面主脈は明かに隆起するも、側脈は稍不明なり、兩面僅かに之を認め得るに過ぎず、透すも葉厚くして見えす、柄は色を異にし、且稍々軟質性なり、葉長一五—一七耗、幅一一—一五耗、柄長一一—一五耗あり。胚節明。頂圓V字形をなす。軸は下部に至るに従ひ膨大、帶紫綠色又暗紫色のものあり、短毛を帶ぶ、長二〇—三〇耗に達す。莖も亦帶紫綠色又暗紫色、上向して曲れる毛密布す。新葉は初より互生、胚節を去る三—七耗の所に第一葉を生ず、第一葉は長柄の單葉にして圓形又稜狀圓形をなし、第二葉は少しく上部に生じ、長柄にして三個若くは五個の小葉より成れる復葉なり、葉柄には莖と同じく毛を生じ、葉片は兩面共殆んど毛なし、柄は綠色又は帶紫綠色時に暗紫色、葉片幼きものは淡綠色時に帶紫色、葉柄の基部に針形の顯著なる托葉を有す、嫩芽は葉片にも白毛密布し、稍々白く見ゆ。根と軸との界線不明なるも根部は淡黃色なると急に其太さを減するに依り、僅かに區別し得べし、主根あるも後發達せず、側根のみ著しく發達す、中庸の根にして支根を生ぜず、長く伸長す。本稚苗には一種生臭き臭氣あるを以て他樹と區別するを得べし。

第一七〇 アトランティック *Ailanthus glandulosa, Desf.* 苦木科 Simarubaceae

本稚苗は支那原產のものにして、林試構内植栽のものより播種培養したるものなり、子葉は稍々厚質、水平に近く斜上し、柄は約四十五度に斜上す、葉片は前後に反り、兩緣は表面に少しく曲る故に葉緣は大波動をなす、子葉は大體橢圓形又倒卵狀橢圓形なるも不方正形なり(特)、圓頭、圓脚又鈍脚、全緣、脈は主側脈共表面に僅かに隆起し認め得るも、裏面に於ては主脈の下部のみ廣く隆起するも、他は認め難し、葉長一三

一四耗、幅九一〇耗、柄長四一五耗あり、柄は割合に長く見ゆ。胚節明、廣きV字形をなす。軸は薄き淡綠色、短毛を帶ぶ、微紅を帶ぶるものあり(ルーベ)、肉眼にては殆んど見えす、長四〇一四五耗に達す。莖は淡綠色、上向して曲りたる白毛密生す。新葉は初め對生にして胚節を去る五七耗の所に生じ、三小葉より成る複葉なり、葉柄葉縁及表面脈上に白曲毛を生ず、原圖の如く小葉中、左右の二小葉著しく小形にして、頂葉は側小葉の數倍大なり、何れも粗らき缺刻を有す、葉は淡綠色にして表裏面の別なし、唯表面は脈凹み裏面に隆起す。根と軸との界線明にして、軸部は稍々膨大し、根部は急に細くなり且つ淡褐色を呈す、主根は曲り側根粗生し、僅かに一二の支根を生ぜるのみ、根端所々膨大し根瘤菌狀を呈す。

第二十一 ヤマシロ Meliosma pungens, Walp. 泡吹科(清風藤科) Sabiaceae

本稚苗は林試技師小山光男君の播種培養せるものを調査したるものなり、茲に特記して其好意を謝す、子葉は初め斜上し漸次水平となるも柄は斜上す、葉は長橢圓形又卵狀長橢圓形、稍々銳頭、鈍脚、全縁、表面綠色、裏面帶黃綠色、脈は主脈表面に於て色を異にし認め得るも、側脈は認め難し、裏面に於ては主脈は隆起し、側脈は僅かに之を認め得るに過ぎず、表面には粒狀凸起點密布し美様なり(ルーベ)、毛は葉柄に之を有し葉裏の下方に微毛あり、葉長二〇一二耗、幅七一八耗、柄長一二五耗あり。胚節明、V字形をなす。軸は圓く綠色にして微紫色を帶び、稍々暗色を呈す、長毛密布す、軸の長三〇一四〇耗に達す、莖は淡綠色、暗褐毛密布す、著しき毛なり。新葉は初より互生、往々對生狀に見ゆるものあり、第一葉は胚節を去る二一五耗の所に生じ、第二、第三葉等よりも小形葉なり、第二葉目より稍々大形葉となり、長柄にして長卵形、銳頭、圓脚又鈍脚、小さき粗齒牙縁をなす、葉柄には莖と等しき毛を密生し、表裏共多毛なり、裏面主脈は特に多く生ず、脈は著しく表面に凹み皺狀を呈し、恰もビハの葉を思はしむ、裏面の脈は著しく隆起し、葉は全體裏面に曲る性あり、此點又ビハに似たり、ヤマビハの名蓋し偶然にあらざるなり。根は軸との界線稍々明にして淡褐色を呈す、主根能く發達し稍々直走す、側根も亦稍々太き方にして稍々水平に出づるを特徴とす、密生根に近し。本稚苗は軸部より數本の側根を出だすを見る。

第二十二 ハルニシ Uinus campestris, Sm. var laevis Planch 榆科 Uimaceae

本稚苗は林試見本園産のものを播種培養したるものなり、子葉は稍々多肉質、水平に開張、又稍々斜下す、其形狀は廣橢圓形又橢圓形頂圓、基部に兩耳を有し、耳端は外曲するもケヤキの如く著しからず、全縁にして脈は兩面共に見えす、表面綠色、裏面帶綠白色なり、子葉の裏面は

内部凹みて杓子狀をなす(特)、表面短毛密布、裏面殆んど之を見ず、葉柄の上面及び柄頭に近き裏面葉片部には腺毛を認む(ルーベ、特)、子葉長四・五—五・〇耗、幅四・二—四・五耗、柄長僅かに〇・三耗にして葉片の兩耳の長さよりも短かし(特)。胚節明稍々平なり。軸は細く圓く、稍々長き直毛密布す(特)、軸は初め淡綠色なるも漸次褐色を加へ、暗淡褐色となり、遂に褐色に變ず、軸長二五—三〇耗に達す。莖は初め微紅色を帯び又稍々紅色に富めるものあり、直毛密布す、而して莖は節毎に上部に稍々太く、下部に稍々細き特性あり。新葉は初めの間は何れも對生葉にして第一及び第二葉即ち第一對目の葉は胚節を去る三—八耗の所に、第二對目の葉は之と直角に殆んど同一又はより長き節間を以て、第三對目、第四對目等順次に生ずるものなり、葉形も亦漸次増大す、第一、第二對目の葉は卵形又は橢圓形、第二、第三對葉は橢圓形又は倒卵狀橢圓形にして、何れも葉縁には鋭鋸齒を有し、尖頭楔脚、短柄の葉なり、脈は表面に凹み裏面に著しく隆起す、葉柄、葉裏脈上、葉縁等に毛あり稍々剛毛を混す、表面には毛粗生す、葉柄の基部に披針形の稍々顯著なる托葉を有し著しく見ゆ。根と軸との界線は根は急に細くなると根毛宿存するとに依り區別し得べし、主根は稍々著しく側根は支根を有し稍々下向して生じ、密生根をなす。

第二十三 ヤブムラサキ *Callicarpa mollis*, S. et Z. 馬鞭草科 Verbenaceae

本稚苗は林試見本園産のものを播種培養したるものなり。子葉は稍々薄質、水平に開張、又稍々斜下し、柄は稍々斜上す、即ち葉片の基部に於て屈曲す、葉の表面は稍々綠色、裏面帶白淡綠色、全縁なるも葉縁には刺毛狀の毛密生す、腺毛狀の毛を混す(強ルーベ)、柄は割合に長く見え、上面廣き溝をなし溝の兩淵厚し、葉片の表面に毛粗生し、廣卵形にして頂凹み、裏面には殆んど毛なし、葉長四・八—五・五耗、幅四・五—五・五耗、柄長二—四耗あり。胚節明V字形をなす。軸は圓く帶微黃淡綠色立毛密生す、軸長八—一〇耗許に過ぎず。莖は淡綠色にして圓く立毛密生す。新葉は初より對生胚節を去る三—四耗の所に子葉と直角の位置に第一對を生じ、尙ほ少間隔を以て第二、第三對葉を生じ、對數の増加に伴ひ葉の大きさも亦増大す。第一對葉は割合に小形にして長四—六耗、二—四鋸齒なるも、第二對目の葉は長一〇—一五耗にして五—七鋸齒を具ふ、葉は大體卵狀橢圓形又橢圓形、鈍頭、鈍脚、兩面共淡綠色なり、葉柄葉縁及葉裏に直立毛あり、脈は表面凹み裏面に隆起す、柄、片の區別不明なるも柄を有し、柄部の毛は刺狀に見ゆ。根は軸と根との界線部稍々隆起し、根は急に細くなり、且つ色を異にするを以て區別し得べし、主根發達せず、側根及び支根を生じ稍々屈曲性にして細根系に屬す。

第一七四 クサイチロ *Rubus Thunbergii*, S. et Z. 薔薇科 Rosaceae

本稚苗の母樹は林試構内野生のものを播種培養したるものなり。子葉は稍々薄質、水平に開張、稀に斜下するものもあるも、夫れ等は柄と共に斜下するを常とす、其形橢圓形又卵狀橢圓形、頂圓なるも往々凹むものあり、基部圓、柄は割合に長し、全縁、表面淡綠色、裏面帶白淡綠色、脈は兩面共不明、葉柄及び葉縁に刺毛あり、葉長三・八—四・〇耗、幅三・〇—三・二耗、柄長一・〇—一・八耗あり。胚節明。軸は淡綠色、長三—五耗に過ぎざる小形苗なり、上部に腺狀の刺毛を有す。莖は淡綠色直立せる腺毛を粗生す。葉は初より互生、成樹は複葉なるも稚苗は單葉にして第一葉は胚節に接近して生じ、長柄、圓形、缺刻狀鋸齒を有し、葉柄の長さは葉片長に等しきか或は之より長し、而して腺毛粗生す、葉の兩面及び葉柄に毛を粗生す、脈は表面に凹み著しく裏面に隆起す、表面綠色裏面は帶白淡綠色なり根は軸との界線不明なるも、淡々黑色を呈す、主根發育せずして側、支根を生ず、細毛根なり、根には土粒を密着し洗ふも容易に落ちず、圖は土粒の附着せる狀を示す。

第一七五 ハマコウ *Vitex trifolia, L. var. ovata, Mak.* **馬鞭草科** *Verbenaceae*

本稚苗は茨城縣多賀郡橢形村海岸産のものを播種培養したるものなり。子葉は厚質、多肉性、水平に開張、又は斜下するものあり、葉片は橢圓形又卵狀橢圓形、頂圓く或は僅かに凹むものあり、基部鈍、全縁、表面深綠色、裏面帶黃淡綠色、脈は表面に於て主脈の下部は凹み、及び色を異にするを以て明かに認め得、裏面に於ては僅かに隆起するを以て稍々不明、柄は割合に廣く紫色を呈し、短毛を帶ぶ、表裏面共に細粒點密布美樣なり(強ルーベ)、葉長七—五・五耗、幅四—四・三耗、柄長一—一・五耗あり。胚節明、殆んど水平。軸は淡紫色又は暗紫色、地中部は白色なり、長一五—一八耗、短毛密布す。莖は淡紫色又は暗紫色、時に紫色のものあり。短毛を布く。新葉は初より對生第一對目のものは胚節を去る三—五耗の所に生じ、爾後殆んど同一間隔を以て各々直角に第二對、第三對葉等を生ず、葉は有柄卵形葉にして表面暗綠色、裏面帶白綠色にして白く見ゆ、白毛及白腺毛を密布するに依る、葉表も亦同様なるも、其量にして劣るのみ、脈は表面凹み裏面に隆起側脈と共に明なり、全縁厚質の葉なり、第二對目の葉は長さ一〇耗幅七・五耗許あり、第一對葉と大差なく、少しく其大さを増すのみ、柄は淡紫色にして紫色を呈するものあり、根と軸との界線は隆起線狀を呈し、且つ色を異にするを以て明かに區別あり、主根は少しく屈曲性、長く伸長し、側根は目下小にして細く且つ粗生す。本樹は海岸砂防用樹種にして第一線の植栽に好適す。